



Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.2

インストールガイド

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.2 向け

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.2 インストールガイド

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.2 向け

法律上の通知

Copyright © 2019 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本ガイドには、Red Hat JBoss Enterprise Application Platform (JBoss EAP) のサポートされるインストール方法が記載されています。また、JBoss EAP をサービスとして実行するための設定手順や、JBoss EAP をアンインストールする手順も記載されています。

目次

第1章 はじめに	3
1.1. RED HAT カスタマーポータル	3
1.2. 本書における EAP_HOME の使用	3
第2章 インストールの準備	4
2.1. JBOSS EAP のインストール方法の選択	4
2.2. JBOSS EAP インストールの要件	4
第3章 JBOSS EAP のインストール	6
3.1. ZIP インストール	6
3.2. インストーラーによるインストール	6
3.3. RPM インストール	20
3.4. 自動インストーラーによるインストール	22
第4章 サービスとして実行するよう JBOSS EAP を設定	25
4.1. RED HAT ENTERPRISE LINUX で JBOSS EAP をサービスとして設定 (ZIP およびインストーラーによるインストール)	25
4.2. RED HAT ENTERPRISE LINUX で JBOSS EAP をサービスとして設定 (RPM インストール)	26
4.3. MICROSOFT WINDOWS SERVER で JBOSS EAP をサービスとして設定	27
4.4. JSVC を使用して JBOSS EAP をサービスとして設定	29
第5章 JBOSS EAP のアンインストール	35
5.1. JBOSS EAP のアンインストール (ZIP インストール)	35
5.2. JBOSS EAP のアンインストール (インストーラーによるインストール)	35
5.3. JBOSS EAP のアンインストール (RPM インストール)	36

第1章 はじめに

1.1. RED HAT カスタマーポータル

Red Hat カスタマーポータルは、Red Hat のナレッジリソースやサブスクリプションリソースを管理する集中プラットフォームです。Red Hat カスタマーポータルでは、以下を行うことができます。

- Red Hat エンタイトルメントやサポート契約の管理および維持。
- 正式サポートされたソフトウェアのダウンロード。
- 製品ドキュメントや Red Hat ナレッジベースの利用。
- グローバルサポートサービスへの連絡。
- Red Hat 製品のバグの登録。

カスタマーポータルは <https://access.redhat.com> からアクセスできます。

1.2. 本書における EAP_HOME の使用

本書では、変数 **EAP_HOME** を使用して JBoss EAP へのパスを示しています。この変数は JBoss EAP インストールへの実際のパスに置き換えてください。

- ZIP インストール方法で JBoss EAP をインストールした場合、インストールディレクトリーは、ZIP アーカイブを抽出した **jboss-eap-7.2** ディレクトリーとなります。
- RPM インストール方法で JBoss EAP をインストールした場合、インストールディレクトリーは **/opt/rh/eap7/root/usr/share/wildfly/** になります。
- インストーラーを使用して JBoss EAP をインストールした場合、**EAP_HOME** のデフォルトのパスは **\${user.home}/EAP-7.2.0** になります。
 - Red Hat Enterprise Linux および Solaris では、**/home/USER_NAME/EAP-7.2.0/** になります。
 - Microsoft Windows の場合、**C:\Users\USER_NAME\EAP-7.2.0** になります。
- Red Hat CodeReady Studio インストーラーを使用して JBoss EAP サーバーをインストールおよび設定した場合、**EAP_HOME** のデフォルトのパスは **\${user.home}/devstudio/runtimes/jboss-eap** になります。
 - Red Hat Enterprise Linux の場合、**/home/USER_NAME/devstudio/runtimes/jboss-eap/** になります。
 - Microsoft Windows の場合、**C:\Users\USER_NAME\devstudio\runtimes\jboss-eap** または **C:\Documents and Settings\USER_NAME\devstudio\runtimes\jboss-eap** になります。



注記

EAP_HOME は環境変数ではありません。**JBOSS_HOME** がスクリプトで使用される環境変数です。

第2章 インストールの準備

2.1. JBOSS EAP のインストール方法の選択

JBoss EAP 7 をインストールする方法は複数あります。状況によって最適な方法は異なります。以下の表には、各インストールタイプの概要と、関連するインストールプロセスに関する項へのリンクが記載されています。



注記

JBoss ON を使用して JBoss EAP パッチをデプロイおよびインストールする場合、ZIP インストールで対象の JBoss EAP インスタンスをインストールする必要があります。

表2.1 インストール方法

方法	説明
ZIP インストール	<p>ZIP アーカイブを使用したインストールは、サポートされるすべてのオペレーティングシステムに適しています。インスタンスを手動で展開したい場合はこの方法を使用してください。</p> <p>ZIP インストールは JBoss EAP のデフォルトインストールを提供します。設定はすべてインストールした後に行う必要があります。</p>
JAR インストーラー	<p>JAR インストーラーはコンソールで実行するか、グラフィカルウィザードとして実行することができます。いずれの場合も、サーバーインスタンスのインストール手順および設定手順がステップごとに表示されます。サポートされるすべてのプラットフォームでは、この方法で JBoss EAP をインストールすることが推奨されます。</p> <p>このインストーラーを使用すると、クイックスタートや Maven リポジトリなどの追加設定を行うこともできます。</p>
RPM インストール	<p>Red Hat Enterprise Linux 6、Red Hat Enterprise Linux 7、Red Hat Enterprise Linux 8 のサポートされるインストールでは、RPM パッケージを使用して JBoss EAP をインストールできます。</p>

2.2. JBOSS EAP インストールの要件

各インストール方法には複数の要件があります。以下の表は、一般的な要件と各インストール方法に固有の要件を示しています。

表2.2 JBoss EAP インストールの要件

インストールタイプ	要件
-----------	----

インストールタイプ	要件
一般的な要件	<ul style="list-style-type: none">● Red Hat カスタマーポータル でアカウントを設定する必要があります。● JBoss EAP 7 でサポートされる構成 を確認し、システムをサポートできる状態にしてください。● Red Hat がリリースした更新とエラータを適用し、システムが最新の状態であるようにしてください。
ZIP またはインストーラーの要件	<ul style="list-style-type: none">● サポートされる Java Development Kit (JDK) がインストールされている必要があります。● Microsoft Windows Server では、JAVA_HOME および PATH 環境変数が設定されている必要があります。設定されていないと、ショートカットが動作しません。
RPM の要件	<ul style="list-style-type: none">● Red Hat Subscription Manager を使用して Red Hat Enterprise Linux サーバーを登録する必要があります。● サポートされる Java Development Kit (JDK) がインストールされている必要があります。

第3章 JBOSS EAP のインストール

3.1. ZIP インストール

3.1.1. JBoss EAP のダウンロード (ZIP インストール)

要件

- [JBoss EAP インストールの要件](#)

JBoss EAP の ZIP ファイルは Red Hat カスタマーポータルから入手できます。ZIP ファイルのインストールはプラットフォームに依存します。

1. [Red Hat カスタマーポータル](#) にログインします。
2. [ダウンロード](#) をクリックします。
3. [製品のダウンロードリストの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform](#) をクリックします。
4. [Version](#) ドロップダウンメニューで **7.2** を選択します。
5. リストで [Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.2.0](#) を見つけ、[Download](#) リンクをクリックします。

3.1.2. JBoss EAP のインストール (ZIP インストール)

JBoss EAP の ZIP インストールファイルをダウンロードしたら、パッケージの内容を展開するとインストールできます。

1. 必要な場合は、JBoss EAP をインストールするサーバーおよび場所に ZIP ファイルを移動します。



注記

JBoss EAP を実行するユーザーは、このディレクトリーへの読み書きアクセスが必要になります。

2. ZIP アーカイブを展開します。

```
$ unzip jboss-eap-7.2.0.zip
```



注記

Windows Server の場合は ZIP ファイルを右クリックし、**すべて展開** を選択します。

ZIP アーカイブを展開して作成したディレクトリーは、JBoss EAP インストールの最上位ディレクトリーとなります。このディレクトリーを **EAP_HOME** と呼びます。

3.2. インストーラーによるインストール

3.2.1. JBoss EAP のダウンロード (インストーラーによるインストール)

要件

- JBoss EAP インストールの要件

JBoss EAP JAR インストーラーは Red Hat カスタマーポータルから入手できます。**.jar** アーカイブを使用して、グラフィカルまたはテキストベースのインストーラーを実行できます。サポートされるすべてのプラットフォームで、インストーラーによる JBoss EAP のインストールが推奨されます。

JBoss EAP インストーラーのダウンロード

1. ブラウザーを開き、Red Hat カスタマーポータル (<https://access.redhat.com>) にログインします。
2. **ダウンロード** をクリックします。
3. **製品のダウンロードリストの Red Hat JBoss Enterprise Application Platform** をクリックします。
4. **Version** ドロップダウンメニューで **7.2** を選択します。
5. リストで **Red Hat JBoss Enterprise Application 7.2.0 Installer** を見つけ、**Download** リンクをクリックします。

3.2.2. JBoss EAP インストーラーの実行

JBoss EAP JAR インストーラーは、**グラフィカル** または **テキスト** モードで実行できます。

JBoss EAP グラフィカルインストーラーの実行

1. ターミナルを開き、ダウンロードした JBoss EAP インストーラーの JAR ファイルが含まれるディレクトリーに移動します。
2. 以下のコマンドを実行して、グラフィカルインストーラーを起動します。

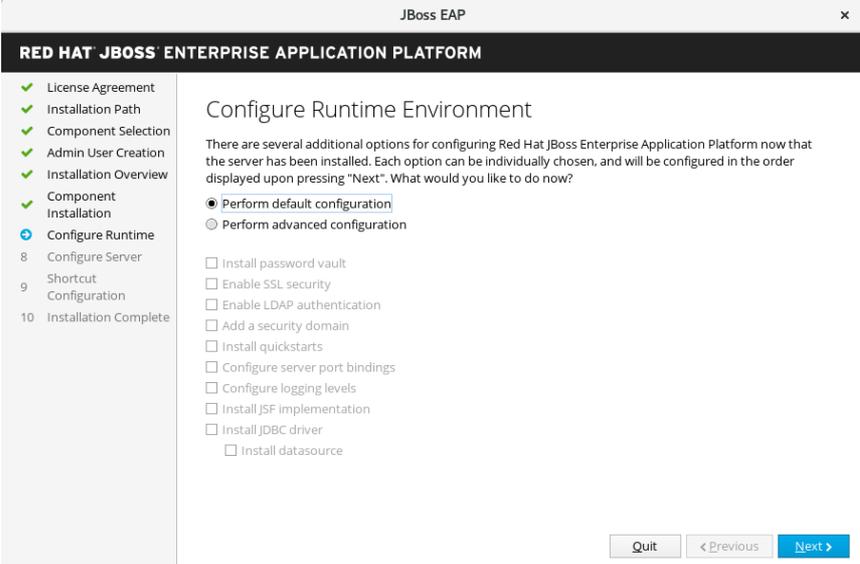
```
$ java -jar jboss-eap-7.2.0-installer.jar
```

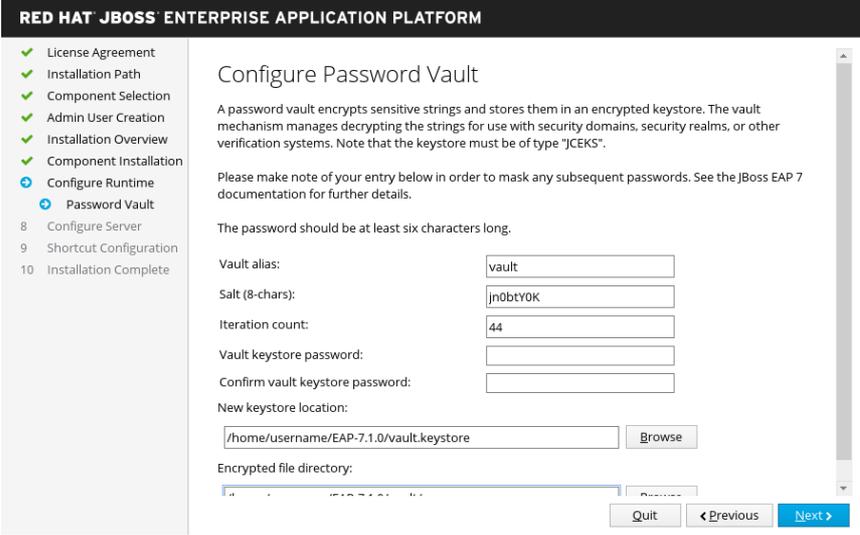
3. 以下の表の手順を実行します。

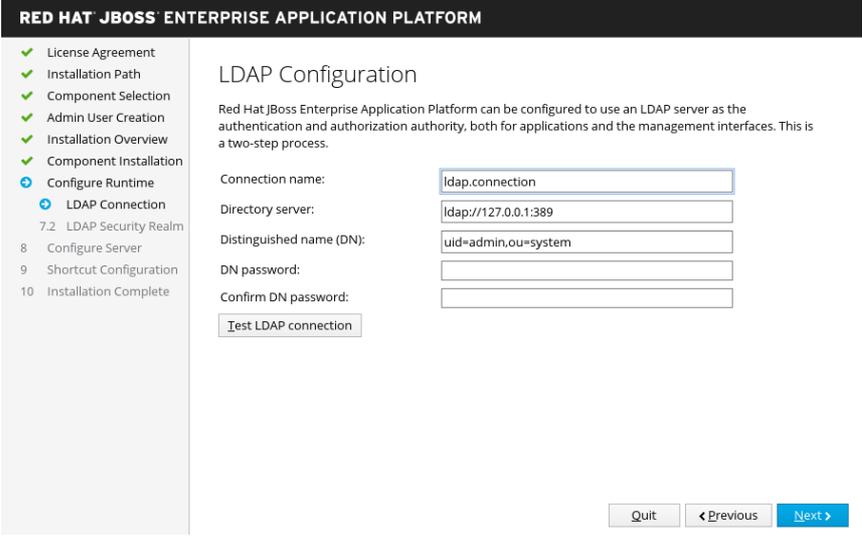
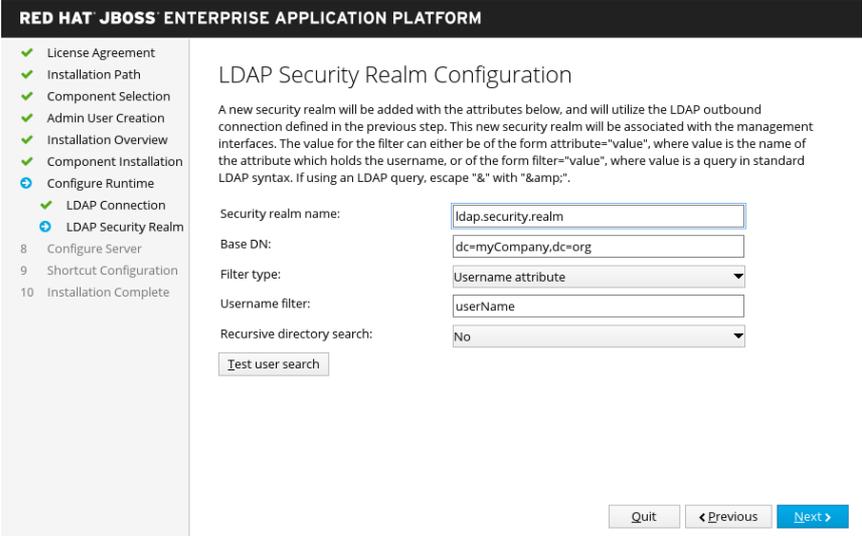
表3.1 JBoss EAP インストーラー画面

画面の名前	どのような場合に表示されるか	説明
言語の選択	常時	インストーラーの言語を選択し、 OK をクリックします。
ライセンス同意書	常時	RED HAT JBOSS MIDDLEWARE のエンドユーザーライセンス契約。 「このライセンス契約の条件に同意します。」を選択し、 次へ をクリックします。

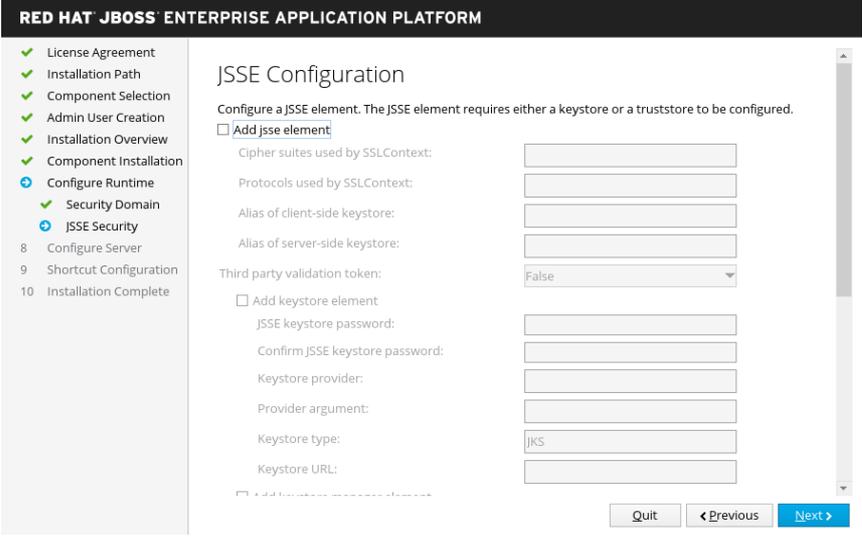
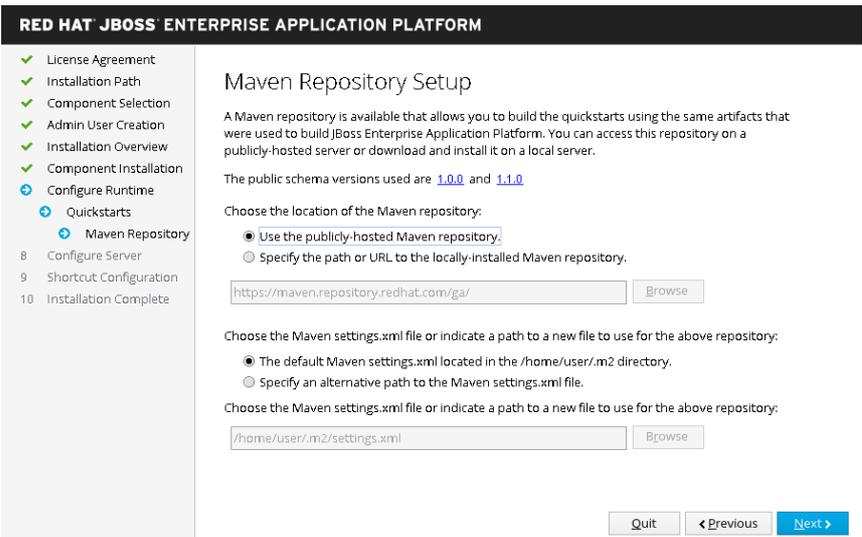
画面の名前	どのような場合に表示されるか	説明
インストールパス	常時	JBoss EAP のインストールパスを選択し、 次へ をクリックします。
コンポーネントの選択	常時	インストールするコンポーネントを選択します。必要なコンポーネントは選択を解除できません。
<p>図3.1 JBoss EAP インストーラー: コンポーネント選択画面</p>		
管理ユーザーの作成	常時	管理ユーザーを作成し、パスワードを割り当てます。 次へ をクリックします。
インストールの概要	常時	インストールオプションを確認した後、 次へ をクリックします。
コンポーネントのインストール	常時	インストールの処理が完了したら、 次へ をクリックします。
ランタイム環境の設定	常時	JBoss EAP インストールのデフォルト設定を選択するか、インストーラーで詳細設定を実行することができます。デフォルト設定を選択しても、後で JBoss EAP 管理インターフェースを使用して設定を変更できます。 デフォルト設定の実行 または 詳細設定の実行 を選択し、設定する項目を選択してから 次へ をクリックします。

画面の名前	どのような場合に表示されるか 説明	
	<p style="text-align: center;">図3.2 JBoss EAP インストーラー: ランタイム環境設定画面</p> 	
パスワード vault の設定	ランタイム環境の詳細設定でパスワード vault のインストールを選択したとき。	暗号化されたキーストアに機密パスワードをすべて保存するようにパスワード vault を設定し、 次へ をクリックします。詳細は、『 How To Configure Server Security 』の パスワード vault に関する情報 を参照してください。

画面の名前	どのような場合に表示されるか 説明	
	<p style="text-align: center;">図3.3 JBoss EAP インストーラー: パスワード vault 設定画面</p> 	
SSL セキュリティー	ランタイム環境の詳細設定で SSL セキュリティーの有効化を選択したとき。	<p>JBoss EAP 管理インターフェースをセキュア化する SSL キーストアおよびキーストアパスワードを指定し、次へ をクリックします。詳細は、『How To Configure Server Security』の管理インターフェースのセキュア化に関する情報を参照してください。</p> <div style="background-color: #fff9c4; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <p style="text-align: center;"> 警告</p> <p>Red Hat では、影響するすべてのパッケージで TLSv1.1 または TLSv1.2 を利用するために SSLv2、SSLv3、および TLSv1.0 を明示的に無効化することを推奨しています。</p> </div>
LDAP の設定	ランタイム環境の詳細設定で LDAP 認証の有効化を選択したとき。	LDAP ディレクトリーサーバーを管理コンソール、管理 CLI、および管理 API の認証ソースとして使用するよう LDAP 認証を有効にします。指定後に 次へ をクリックします。詳細は、『 How to Configure Identity Management 』の LDAP に関する情報 を参照してください。

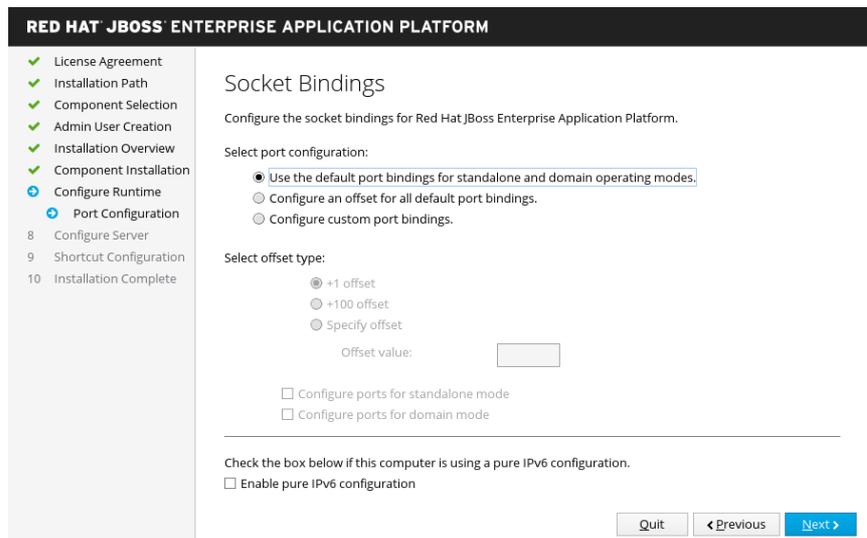
画面の名前	どのような場合に表示 説明 されるか	
	<p style="text-align: center;">図3.4 JBoss EAP インストーラー: LDAP 設定画面</p> 	
LDAP セキュリティーレルムの設定	ランタイム環境の詳細設定で LDAP 認証の有効化を選択したとき。	<p>前のステップで定義された LDAP 接続を使用して、新しいセキュリティーレルムが作成され、管理インターフェースに関連付けられます。</p> <p>LDAP 環境の値を指定した後、次へ をクリックします。詳細は、『How to Configure Identity Management』の LDAP に関する情報を参照してください。</p>
	<p style="text-align: center;">図3.5 JBoss EAP インストーラー: LDAP セキュリティーレルム設定画面</p> 	

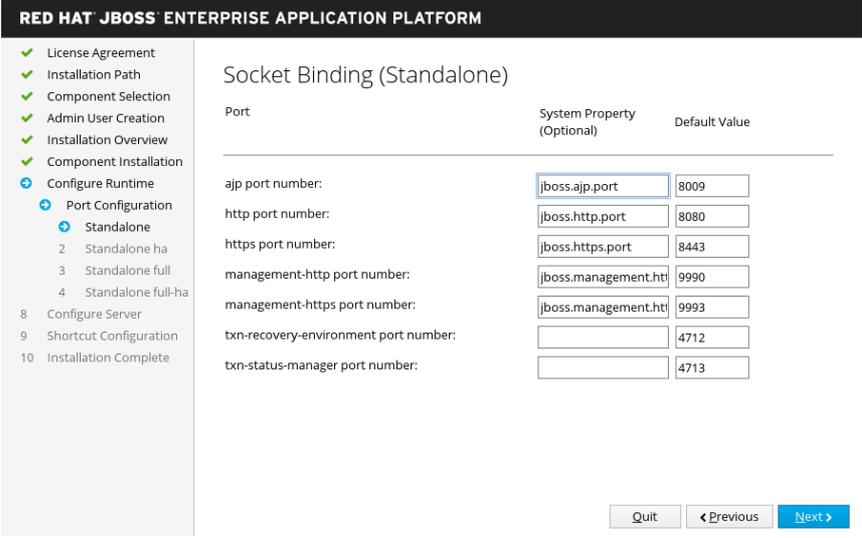
画面の名前	どのような場合に表示されるか	説明
セキュリティドメインの設定	ランタイム環境の詳細設定でセキュリティドメインの追加を選択したとき。	JBoss EAP サーバーインスタンスのセキュリティドメインを設定します。ほとんどのフィールドにはすでにデフォルト値が入力されており、変更する必要はありません。指定後に 次へ をクリックします。詳細は『 セキュリティアーキテクチャー 』の「 セキュリティドメイン 」を参照してください。
<p>図3.6 JBoss EAP インストーラー: セキュリティドメイン設定画面</p>		
JSSE 設定	ランタイム環境の詳細設定でセキュリティドメインの追加を選択したとき。	キーストアまたはトラストストアのいずれかを使用して、前のステップで定義されたセキュリティドメインの Java Secure Socket Extension (JSSE) を設定します。指定後に 次へ をクリックします。

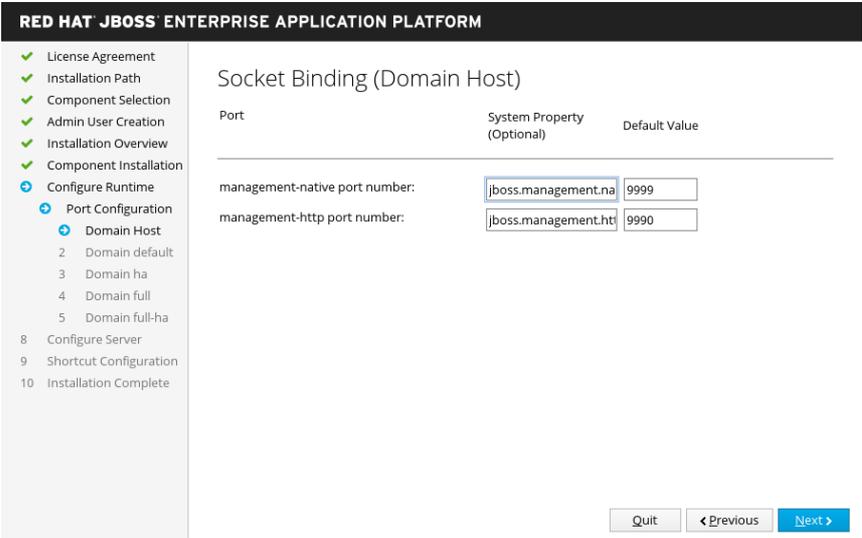
画面の名前	どのような場合に表示 説明 されるか	
	<p style="text-align: center;">図3.7 JBoss EAP インストーラー: JSSE 設定画面</p> 	
クイックスタート	ランタイム環境の詳細設定でクイックスタートのインストールを選択したとき。	クイックスタートのインストールパスを選択し、 次へ をクリックします。
Maven リポジトリのセットアップ	ランタイム環境の詳細設定でクイックスタートのインストールを選択したとき。	Maven リポジトリと設定ファイルを選択します。
	<p style="text-align: center;">図3.8 JBoss EAP インストーラー: Maven リポジトリセットアップ画面</p> 	

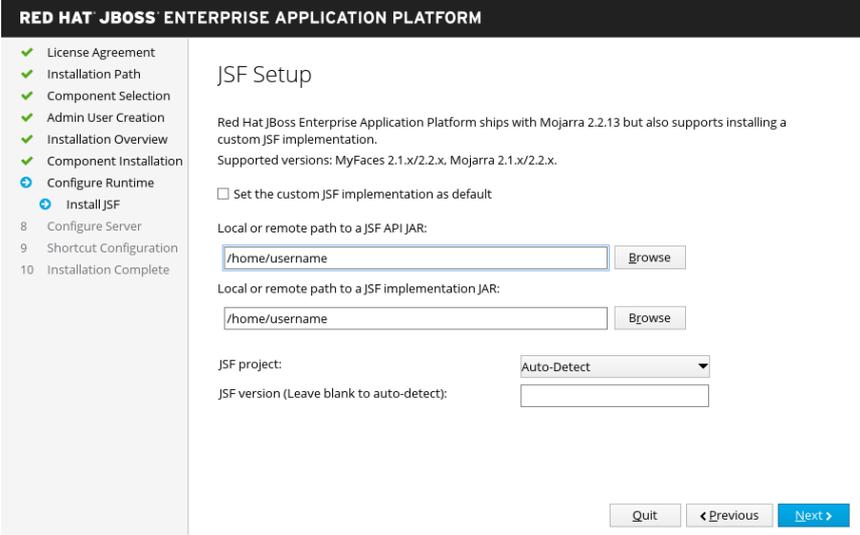
画面の名前	どのような場合に表示されるか	説明
ソケットバインディング	ランタイム環境の詳細設定でサーバーポートバインディングの設定を選択したとき。	<p>インストールでデフォルトのポートバインディングを使用するかどうか、すべてのデフォルトバインディングにポートオフセットを設定するかどうか、またはカスタムポートバインディングを設定するかどうかを決定します。</p> <p>ポートオフセットの設定を選択した場合は、オフセット番号を選択します。</p> <p>カスタムバインディングの設定を選択した場合は、ポートを設定するモード(スタンドアロンモード、ドメインモード、または両方のモード)を選択します。</p> <p>ホストがIPv6専用で設定されている場合は、ピュアIPv6設定の有効化チェックボックスを選択します。これにより、インストーラーによって必要な設定変更が行われます。</p> <p>次へ をクリックします。</p>

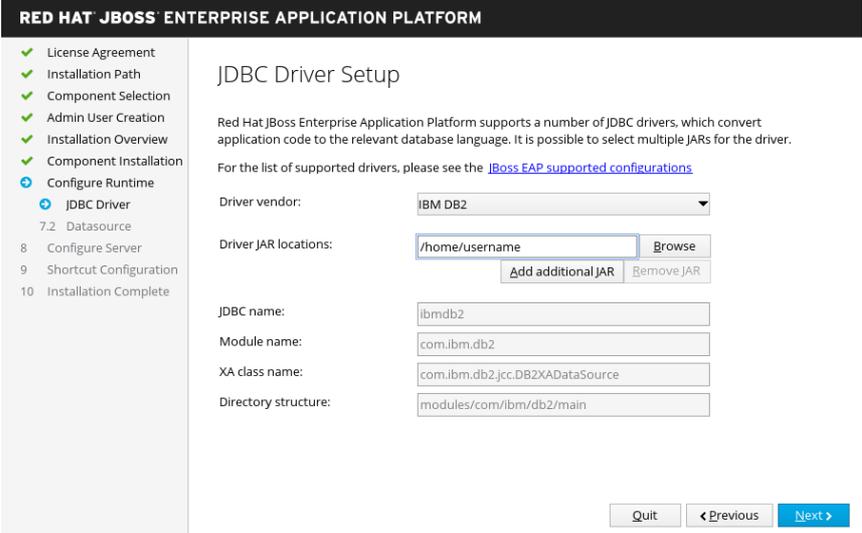
図3.9 JBoss EAP インストーラー: ソケットバインディング画面

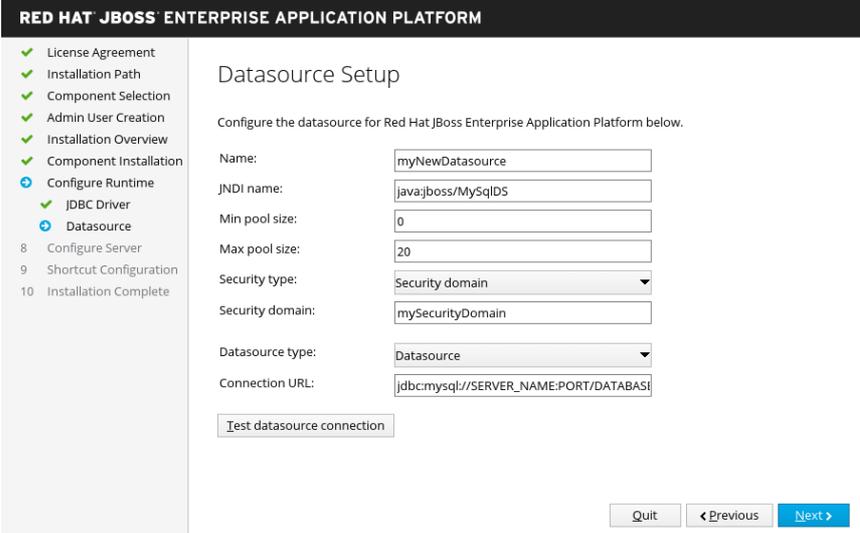


画面の名前	どのような場合に表示されるか	説明
スタンドアロン設定の カスタムソケットバインディング	スタンドアロンモードにカスタムポートバインディングを設定することを選択したとき。	各スタンドアロン設定 (standalone 、 standalone ha 、 standalone full 、および standalone full-ha) にポートおよびシステムプロパティーを設定し、 次へ をクリックします。
<p>図3.10 JBoss EAP インストーラー: スタンドアロン設定のカスタムソケットバインディングの画面</p> 		
ドメイン設定のカスタムソケットバインディング	ドメインモードにカスタムポートバインディングを設定することを選択したとき。	ホスト設定 (domain host) および各ドメインプロファイル (domain default 、 domain ha 、 domain full 、および domain full-ha) にポートおよびシステムプロパティーを設定し、 次へ をクリックします。

画面の名前	どのような場合に表示 説明 されるか	
	<p>図3.11 JBoss EAP インストーラー: ドメイン設定のカスタムソケットバインディングの画面</p> 	
ロギングのオプション	ランタイム環境の詳細設定でロギングレベルの設定を選択したとき。	希望するロギングレベルを選択し、 次へ をクリックします。
JSF の設定	ランタイム環境の詳細設定で JSF 実装のインストールを選択したとき。	JSF オプションと JSF JAR へのパスを設定し、 次へ をクリックします。詳細は、『 設定ガイド 』の「 JSF 実装のインストール 」を参照してください。

画面の名前	どのような場合に表示 説明 されるか	
	<p style="text-align: center;">図3.12 JBoss EAP インストーラー - JSF セットアップ画面</p> 	
JDBC ドライバーの セットアップ	ランタイム環境の詳細 設定で JDBC ドライ バーをインストールす ることを選択したと き。	JDBC ドライバーをインストールおよびセッ トアップします。ドロップダウンリストから適切 なドライバーのベンダーを選択し、ドライバー JAR の場所を指定します。指定後に 次へ をク リックします。詳細は『 設定ガイド 』の デー タソース JDBC ドライバーの情報 を参照してく ださい。

画面の名前	どのような場合に表示されるか 説明	
	<p style="text-align: center;">図3.13 JBoss EAP インストーラー: JDBC ドライバーセットアップ画面</p> 	
データソースのセットアップ	ランタイム環境の詳細設定で JDBC ドライバーとデータソースのインストールを選択したとき。	アプリケーションが使用できるデータソースを設定します。データソースの名前を指定し、他のフィールドを設定してから 次へ をクリックします。詳細は、『 設定ガイド 』の データソースの管理に関する情報 を参照してください。

画面の名前	どのような場合に表示されるか 説明	
	<p style="text-align: center;">図3.14 JBoss EAP インストーラー: データソースセットアップ画面</p> 	
サーバーの設定	常時	設定の処理が完了したら 次へ をクリックします。
ショートカットの設定	常時	スタートメニューにショートカットチェックボックスを選択し、ショートカットを作成します。英数字、ダッシュ (-)、およびアンダースコア (_) のみを使用できます。Microsoft Windows では、スラッシュ (/) およびバックスラッシュ (\) みを使用できます。 次へ をクリックします。
インストールの完了	常時	<p>選択したインストールオプションを後々自動インストールで使用する場合は インストールスクリプトとプロパティファイルを生成します をクリックします。次に、 完了 をクリックします。</p> <p>インストールが完了しました。インストーラーによって作成されたディレクトリーはサーバーの最上位ディレクトリーとなります。このディレクトリーを EAP_HOME と呼びます。</p>

JBoss EAP のテキストベースインストーラーの実行

1. ターミナルを開き、ダウンロードした JBoss EAP インストーラーの JAR が含まれるディレクトリーに移動します。
2. 以下のコマンドを実行して、テキストベースのインストーラーを起動します。

```
$ java -jar jboss-eap-7.2.0-installer.jar -console
```

- 指示に従って JBoss EAP をインストールします。インストーラーによって作成されたディレクトリはサーバーの最上位ディレクトリとなります。このディレクトリを **EAP_HOME** と呼びます。

3.3. RPM インストール



注記

Red Hat Enterprise Linux 7 より、**チャンネル** という表現は **リポジトリ** に変更になりました。これらの手順では、**リポジトリ** という表現のみが使用されています。

3.3.1. リポジトリの選択

RPM から JBoss EAP をインストールするには、**Red Hat Enterprise Linux Server** ベースのソフトウェアリポジトリへのサブスクリプションと、JBoss EAP の minor リポジトリへのサブスクリプションの両方が必要になります。

JBoss EAP リポジトリでは、JBoss EAP の minor リポジトリの1つにサブスクライブする必要があります。minor リポジトリは、JBoss EAP 7 の特定のマイナーリリースと適用対象となるすべてのパッチを提供します。これにより、JBoss EAP 7 の同じマイナーバージョンを維持しながら最新の深刻度が高いパッチとセキュリティーパッチを適用できます。

たとえば、このリポジトリから更新を行うと、指定の JBoss EAP マイナーバージョンのパッチおよびセキュリティー更新が含まれますが、JBoss EAP 7.2 から JBoss EAP 7.3 へのアップグレードは**含まれません** (7.3 がリリース済みの場合)。

3.3.1.1. JBoss EAP 7 の minor リポジトリのサブスクリプション

- Red Hat サブスクリプションマネージャーを使用して、Red Hat Enterprise Linux システムがご持ちのアカウントに登録されているようにしてください。詳細は、[Red Hat Subscription Management に関するドキュメント](#) を参照してください。
- Red Hat サブスクリプションマネージャーを使用して以下のコマンドを実行し、JBoss EAP 7 の minor リポジトリの1つにサブスクライブします。必ず以下を行なってください。
 - EAP_MINOR_VERSION** を目的の JBoss EAP マイナーバージョンに置き換えてください。たとえば、本リリースのマイナーバージョンの場合は **7.2** を入力します。
 - ご使用の Red Hat Enterprise Linux のバージョンに応じて、**RHEL_VERSION** を **6** または **7** に置き換えてください。

```
# subscription-manager repos --enable=jb-eap-EAP_MINOR_VERSION-for-rhel-RHEL_VERSION-server-rpms
```

- Red Hat Enterprise Linux 8 の場合は、以下のコマンドを使用します。

```
# subscription-manager repos --enable=jb-eap-EAP_MINOR_VERSION-for-rhel-RHEL_VERSION-ARCH-rpms
```

3.3.2. JBoss EAP のインストール (RPM インストール)

要件

- [JBoss EAP インストールの要件](#)
- [JBoss EAP リポジトリのサブスクリプション](#)

JBoss EAP のインストール

以下のいずれかのコマンドを実行してサブスクライブしたりリポジトリから JBoss EAP をインストールします。

- JBoss EAP および JDK 8 をインストールします。

```
# yum groupinstall jboss-eap7
```

- JBoss EAP および JDK 11 をインストールします。JDK 11 は、Red Hat Enterprise Linux 7 以降で利用できます。

- Red Hat Enterprise Linux 7

```
# yum groupinstall jboss-eap7-jdk11
```

- Red Hat Enterprise Linux 7

```
# dnf groupinstall jboss-eap7-jdk11
```

groupinstall コマンドは、そのバージョンの JDK がシステムにインストールされていない場合、指定されたバージョンの JDK をインストールします。すでに別のバージョンの JDK が存在する場合は、コマンド実行後に複数の JDK をインストールする必要があります。

groupinstall の完了後にシステムに複数の JDK がインストールされている場合は、JBoss EAP の実行に使用する JDK を確認してください。デフォルトでは、システムのデフォルトの JDK が使用されます。

以下の方法で、デフォルトを変更することができます。

- **alternatives** コマンドを使用して、システム全体の設定を変更します。

```
# alternatives --config java
```

このコマンドは、インストールされた JDK のリストと、特定の JDK をデフォルトとして設定する手順を表示します。

- 『設定ガイド』の「[RPM サービス設定プロパティ](#)」で説明されているように、JAVA_HOME プロパティから JBoss EAP で使用される JDK を変更します。

インストールが完了します。RPM インストールのデフォルトの **EAP_HOME** パスは `/opt/rh/eap7/root/usr/share/wildfly` になります。



重要

RPM インストールで JBoss EAP をインストールした場合、複数のドメインまたはホストコントローラーを同じマシン上に設定することはサポートされません。

3.3.3. リポジトリの変更

JBoss EAP インストールのライフサイクルの間に、サブスクライブする JBoss EAP リポジトリを変更する必要がある可能性があります。リポジトリの変更は以下の場合のみサポートされます。

「current」リポジトリから「minor」リポジトリへの変更

最新の「minor」リポジトリへ変更する場合はサポートされます。



重要

JBoss EAP 7.2 より、JBoss EAP の **current** リポジトリは利用できなくなりました。以前のリリースの JBoss EAP で **current** リポジトリにサブスクライブした場合、本リリースではサブスクリプションを **minor** リポジトリの1つに変更する必要があります。

minor リポジトリから他の minor リポジトリへの変更

JBoss EAP の次のマイナーバージョンへ変更する場合はサポートされます。たとえば、JBoss EAP 7.0 から JBoss EAP 7.1 への変更はサポートされますが、JBoss EAP 7.0 から JBoss EAP 7.2 への変更はサポートされません。

要件

- JBoss EAP を [RPM インストール](#) としてインストールします。
- [変更するリポジトリを選択](#) します。上記の変更条件を満たすようにしてください。

JBoss EAP リポジトリの変更

1. リポジトリを変更する前に、以下のコマンドを実行して JBoss EAP インストールに適用できる更新がすべて適用されるようにしてください。

```
# yum update
```

2. Red Hat サブスクリプションマネージャーを使用して、現在サブスクライブしているリポジトリのサブスクリプションを解除し、変更する新しいリポジトリにサブスクライブします。以下のコマンドの **EXISTING_REPOSITORY** および **NEW_REPOSITORY** は適切なリポジトリ名に置き換えてください。

```
# subscription-manager repos --disable=EXISTING_REPOSITORY --  
enable=NEW_REPOSITORY
```

3.4. 自動インストーラーによるインストール

[JAR インストーラー](#) を使用して JBoss EAP をインストールすると、以前のインストールから生成されたインストールスクリプトを使用して、今後のインストールを同じ設定内容で自動化できます。



警告

自動化インストーラーは後方互換性を維持しません。旧バージョンの JBoss EAP から生成されたインストールスクリプトを自動インストーラーに使用することはできません。同じマイナーバージョンの JBoss EAP (JBoss EAP 7.2 など) から生成されたインストールスクリプトのみを使用してください。

要件

- [JAR インストーラー](#) を使用して自動インストールスクリプトを生成します。自動インストールスクリプトは XML ファイルです。

自動インストーラーによるインストール

1. ターミナルを開き、ダウンロードした JBoss EAP インストーラーの JAR ファイルが含まれるディレクトリーに移動します。
2. 以下のコマンドを実行し、自動インストールスクリプトの XML ファイルを使用して JBoss EAP をインストールします。

```
$ java -jar jboss-eap-7.2.0-installer.jar auto.xml
```

デフォルトでは、JBoss EAP の設定に必要なパスワードを入力するよう求められます。[インストール用のパスワードを事前設定](#)すると、無人インストールを実行できます。



注記

自動インストールスクリプトの XML ファイルをネットワークホストに保存し、そのファイルをインストールで使用するように、HTTP または FTP を使用してインストーラーを示すことができます。例を以下に示します。

```
$ java -jar jboss-eap-7.2.0-installer.jar http://network-host.local/auto.xml
```

```
$ java -jar jboss-eap-7.2.0-installer.jar ftp://network-host.local/auto.xml
```

3.4.1. 無人自動インストーラーによるインストール

要件

- [JAR インストーラー](#) を使用して自動インストールスクリプトを生成します。自動インストールスクリプトは XML ファイルです。

無人自動インストーラーによるインストールを実行するには、JBoss EAP のインストールに必要なパスワードを事前設定する必要があります。

以前のインストーラーによるインストールからインストールスクリプトの XML ファイルが生成されると、未完成のインストールスクリプト変数ファイルも生成されます。このファイル名はインストールスクリプトファイルと同じですが、末尾に **.variables** が付きます。

この変数ファイルには、無人自動インストールに必要なキーおよびパスワードパラメーターのリストが含まれています。

必要なパスワードは、[完全な変数ファイル](#)または[インストーラーコマンド実行時の引数](#)として指定できます。

変数ファイルを使用した無人自動インストーラーによるインストール

1. テキストエディターで **.variables** ファイルを開き、各キーにパスワードの値を指定します。例を以下に示します。

```
adminPassword = password#2
vault.keystorepwd = vaultkeystorepw
ssl.password = user12345
```

2. 自動インストールスクリプトの XML ファイルを使用してインストーラーを実行します。完全な変数ファイルがインストールスクリプトの XML ファイルと同じディレクトリーにあり、ファイル名が変更されていなければ、インストーラーによって変数ファイルが自動的に検出されます。

```
$ java -jar jboss-eap-7.2.0-installer.jar auto.xml
```

```
Checking for corresponding .variables file
Variables file detected: auto.xml.variables
[ Starting automated installation ]
...
```

別の方法として、**-variablefile** を使用して変数ファイルへのパスを指定することもできます。

```
$ java -jar jboss-eap-7.2.0-installer.jar auto.xml -variablefile auto.xml.variables
```

-variables 引数を使用した無人自動インストーラーによるインストール

1. 自動インストールスクリプトの XML ファイルを使用してインストーラーを実行し、**-variables** 引数を使用して、必要なパスワードをキーと値のペアとして指定します。例を以下に示します。

```
$ java -jar jboss-eap-7.2.0-installer.jar auto.xml -variables
adminPassword=password#2,vault.keystorepwd=vaultkeystorepw,ssl.password=user12345
```



注記

-variables のキーと値のペアを指定するとき、空白を入れないことが重要になります。

第4章 サービスとして実行するよう JBOSS EAP を設定

4.1. RED HAT ENTERPRISE LINUX で JBOSS EAP をサービスとして設定 (ZIP およびインストーラーによるインストール)

要件

- JBoss EAP を ZIP または [インストーラー](#) でインストールします。
- サーバーの管理者特権。

Red Hat Enterprise Linux で JBoss EAP をサービスとして設定

1. **jboss-eap.conf** ファイルの起動オプションをカスタマイズします。
起動スクリプトと関連する設定ファイルは **EAP_HOME/bin/init.d/** ディレクトリーにあります。テキストエディターで **jboss-eap.conf** を開き、JBoss EAP インストールのオプションを設定します。

jboss-eap.conf ファイルには複数のオプションがありますが、最低でも **JBOSS_HOME** と **JBOSS_USER** の正しい値を指定する必要があります。

該当する行をアンコメントおよび編集すると、設定ファイルの他のオプションをカスタマイズできます。カスタマイズしないと、デフォルトの動作としてサーバーはデフォルトの設定ファイル **standalone.xml** を使用して、スタンドアロン JBoss EAP サーバーを起動します。



注記

JBoss EAP を管理対象ドメインとして起動する場合は、**JBOSS_MODE=domain** を **jboss-eap.conf** に追加します。

カスタムの [ドメイン設定ファイル](#) を指定するには、**JBOSS_DOMAIN_CONFIG=DOMAIN_CONFIG_FILE.xml** および **JBOSS_HOST_CONFIG=HOST_CONFIG_FILE.xml** を追加します。デフォルトでは、JBoss EAP は **domain.xml** および **host.xml** をドメイン設定ファイルとして使用します。

2. サービスファイルをシステムディレクトリーにコピーします。
 - a. 変更したサービス設定ファイルを **/etc/default** ディレクトリーにコピーします。

```
$ sudo cp EAP_HOME/bin/init.d/jboss-eap.conf /etc/default
```

- b. サービス起動スクリプトを **/etc/init.d** ディレクトリーにコピーし、実行パーミッションを付与します。

```
$ sudo cp EAP_HOME/bin/init.d/jboss-eap-rhel.sh /etc/init.d
$ sudo chmod +x /etc/init.d/jboss-eap-rhel.sh
```

3. **chkconfig** サービス管理コマンドを使用して、自動的に起動されるサービスのリストに新しい **jboss-eap-rhel.sh** サービスを追加します。

```
$ sudo chkconfig --add jboss-eap-rhel.sh
```

- 以下のコマンドの1つを使用して、サービスが正しくインストールされたことをテストします。

- a. Red Hat Enterprise Linux 6 の場合

```
$ sudo service jboss-eap-rhel.sh start
```

- b. Red Hat Enterprise Linux 7 以降の場合:

```
$ sudo service jboss-eap-rhel start
```

サービスが起動します。エラーが発生した場合はエラーログを確認し、設定ファイルのオプションが正しく設定されていることを確認してください。

5. Red Hat Enterprise Linux サーバーの起動時にサービスが自動的に起動するようにするには、以下のコマンドを実行します。

```
$ sudo chkconfig jboss-eap-rhel.sh on
```

JBoss EAP サービスを削除する場合は、以下の手順に従います。

Red Hat Enterprise Linux での JBoss EAP サービスの削除

1. サービスが実行中である場合は、ターミナルを開き、以下のコマンドの1つを使用してサービスを停止します。

- a. Red Hat Enterprise Linux 6 の場合

```
$ sudo service jboss-eap-rhel.sh stop
```

- b. Red Hat Enterprise Linux 7 以降の場合:

```
$ sudo service jboss-eap-rhel stop
```

2. サービスのリストから JBoss EAP を削除します。

```
$ sudo chkconfig --del jboss-eap-rhel.sh
```

3. サービス設定ファイルと起動スクリプトを削除します。

```
$ sudo rm /etc/init.d/jboss-eap-rhel.sh  
$ sudo rm /etc/default/jboss-eap.conf
```

4.2. RED HAT ENTERPRISE LINUX で JBOSS EAP をサービスとして設定 (RPM インストール)

要件

- JBoss EAP を [RPM インストール](#) としてインストールします。
- サーバーの管理者特権。



重要

単一のマシン上に複数の JBoss EAP インスタンスをシステムサービスとして設定することはサポートされません。

JBoss EAP の RPM インストールは、JBoss EAP をサービスとして実行するために必要なものをすべてインストールします。以下のコマンドの1つを実行して、システム起動時に自動的に開始するよう JBoss EAP サービスをアクティブ化します。

以下のコマンドでは、**EAP_SERVICE_NAME** を **eap7-standalone** (スタンドアロン JBoss EAP サーバーの場合) または **eap7-domain** (管理対象ドメインの場合) に置き換えます。

- Red Hat Enterprise Linux 6 の場合

```
chkconfig EAP_SERVICE_NAME on
```

- Red Hat Enterprise Linux 7 以降の場合:

```
systemctl enable EAP_SERVICE_NAME.service
```

要求に応じて JBoss EAP の RPM インストールを開始または停止するには、JBoss EAP 『[設定ガイド](#)』の [RPM の手順に関する情報](#) を参照してください。



注記

詳細やオプションについては、JBoss EAP 『[設定ガイド](#)』の付録に記載されている「[RPM サービス設定ファイル](#)」を参照してください。

4.3. MICROSOFT WINDOWS SERVER で JBOSS EAP をサービスとして設定

要件

- JBoss EAP を [ZIP](#) または [インストーラー](#) でインストールします。
- サーバーの管理者特権。
- **JAVA_HOME** システム環境変数を設定する必要があります。
- JBoss EAP 7 サーバーインスタンスが実行されていない必要があります。



重要

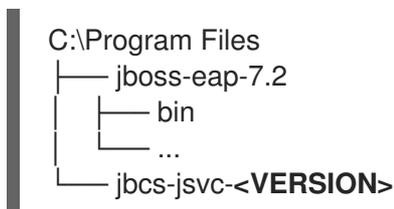
set コマンドを使用して Windows Server コマンドプロンプトでシステム環境変数を設定すると、環境変数は永続的に設定されません。**setx** コマンドを使用するか、コントロールパネルのシステムインターフェースを使用する必要があります。

Microsoft Windows Server で JBoss EAP をサービスとして設定

1. 以下の2つのシステム環境変数を作成します。
 - JBoss EAP インストールディレクトリーを示す **JBOSS_HOME**

- **NOPAUSE=1**

- JBoss Core Services Jsvc パッケージのインストール
設定されていない場合は、JBoss Core Services Jsvc パッケージをダウンロードし、展開します。
 - ブラウザを開き、Red Hat カスタマーポータルで JBoss の [Software Downloads](#) ページにログインします。
 - Product** ドロップダウンメニューから **Apache Jsvc** を選択します。
 - Version** ドロップダウンメニューで最新のバージョンを選択します。
 - システムのプラットフォームとアーキテクチャーに対応する **Red Hat JBoss Core Services Apache Jsvc** を見つけ、**Download** リンクをクリックします。
 - JBoss EAP インストールディレクトリーが含まれるディレクトリーでダウンロードした ZIP ファイルを展開します。
展開すると、JBoss EAP インストールディレクトリーと同じ階層に **jbcjsvc-<VERSION>** ディレクトリーが作成されます。例を以下に示します。



- サービスのインストール
ターミナルを開き、**EAP_HOME\bin** ディレクトリーに移動します。

以下は、スタンドアロンサーバーまたは管理対象ドメインのサーバーに新しいサービスを作成する基本的な **service.bat install** コマンドの例になります。可能なオプションをすべて表示するには、引数を指定せずに **service.bat** を実行します。



重要

/jbossuser および **/jbossuser** パラメーターを指定する場合は、JBoss EAP ユーザーのパスワードにハッシュ (#) またはセミコロン (;) が含まれないようにする必要があります。

以下のコマンドを実行します。サービスのログレベルは必要に応じて変更してください。

- スタンドアロンサーバーの場合:

```
service.bat install /loglevel INFO
```

- 管理対象ドメインのサーバーの場合

/host パラメーターを使用して、サービスによって制御されている JBoss EAP ホストコントローラーの名前を指定します。管理 CLI で **ls /host** を実行すると、名前の有効な値を表示できます。

以下のコマンドの **EAP_HOST_NAME** は JBoss EAP ホストコントローラー名に置き換えてください。JBoss EAP のホストコントローラー名を提供せずに **/host** パラメーターを指定すると、デフォルトで **master** が名前として使用されます。

■

```
service.bat install /host EAP_HOST_NAME /loglevel INFO
```

JBossEAP7 という名前の新しい Windows サービスが作成されます。

4. Services コンソールでの新規サービスの検証

Windows の Services コンソール (**services.msc**) を開き、サービスが作成されたことを確認します。

デフォルトのサービス名が使用された場合は、Windows サービスのリストに新しいサービスの名前 **JBoss EAP7** が表示されます。サービスコンソールからサービスを起動および停止でき、さらにサービスの起動方法および起動時に関する設定を変更できます。

5. ターミナルから JBoss EAP サービスを起動および停止

ターミナルからサービスを起動するには、以下のコマンドを使用します (必要な場合は、サービス名を変更します)。

```
net start JBossEAP7
```

ターミナルからサービスを停止するには、以下のコマンドを使用します (必要な場合は、サービス名を変更します)。

```
net stop JBossEAP7
```

JBoss EAP サービスを削除する場合は、以下の手順に従います。

Microsoft Windows Server の JBoss EAP サービスの削除

1. サービスが実行中の場合は最初にターミナルを開き、サービス名を指定して **net stop** コマンドを実行し、サービスを停止します。

```
net stop JBossEAP7
```

2. ターミナルで、**EAP_HOME\bin** ディレクトリーに移動し、以下のコマンドを実行します。

```
service.bat uninstall
```

4.4. JSVC を使用して JBOSS EAP をサービスとして設定

JBoss Core Services コレクションの Apache Jsvc コンポーネントを使用すると、Red Hat Enterprise Linux および Solaris で JBoss EAP をバックグラウンドサービスとして実行できます。



注記

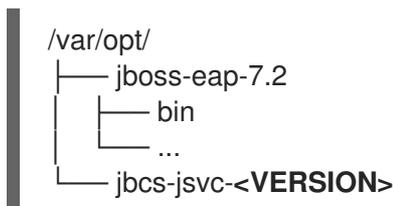
JBoss EAP の Jsvc サポートの主な目的は、Microsoft Windows および Solaris 上で JBoss EAP をサービスとして実行することです。Jsvc は Red Hat Enterprise Linux 上で動作しますが、Red Hat Enterprise Linux で JBoss EAP をサービスとして実行するには [ネイティブメソッド](#) の使用が強く推奨されます。

Jsvc は、Java アプリケーションをバックグラウンドサービスとして UNIX 系プラットフォーム上で実行できるようにするライブラリーとアプリケーションのセットです。これにより、アプリケーションは特権ユーザーとして操作を実行でき、実行後に非特権ユーザーに切り替えできます。

Jsvc はランチャープロセス、コントローラープロセス、および制御されたプロセスの 3 つのプロセスを使用します。制御されたプロセスはメインの Java スレッドでもあります。JVM がクラッシュすると、コントローラープロセスが 60 秒以内に JVM を再起動します。Jsvc はデーモンプロセスで、JBoss EAP 7 では特権ユーザーによって起動される必要があります。

JBoss Core Services Jsvc パッケージのインストール

- ZIP またはインストーラーによるインストールの場合
 1. ブラウザーを開き、Red Hat カスタマーポータルで JBoss の [Software Downloads](#) ページにログインします。
 2. **Product** ドロップダウンメニューから **Apache Jsvc** を選択します。
 3. **Version** ドロップダウンメニューで最新のバージョンを選択します。
 4. システムのプラットフォームとアーキテクチャーに対応する **Red Hat JBoss Core Services Apache Jsvc** を見つけ、**Download** リンクをクリックします。
 5. JBoss EAP インストールディレクトリーが含まれるディレクトリーでダウンロードした ZIP ファイルを展開します。
展開すると、JBoss EAP インストールディレクトリーと同じ階層に **jbcsc-jsvc-<VERSION>** ディレクトリーが作成されます。例を以下に示します。



6. Jsvc を使用して JBoss EAP を起動するコマンドの例では、**jboss** ユーザーがすでに作成されていることを仮定します。JBoss EAP のユーザーを作成していない場合は、以下のコマンドを実行し、**jboss** ユーザーおよびグループを作成します。

```
# groupadd -f -g 185 -r jboss
# useradd -r -u 185 -g jboss -d EAP_HOME -s /sbin/nologin -c "JBoss" jboss
```

- Red Hat Enterprise Linux での RPM インストールの場合
 1. [Red Hat サブスクリプション管理](#) にログインします。
 2. **サブスクリプターイベントリー**のシステムをクリックします。
 3. ご使用のオペレーティングシステムバージョンとアーキテクチャーの JBoss Core Services CDN リポジトリーにサブスクライブします。
 - a. Red Hat Enterprise Linux 6 の場合
 - jbcsc-jsvc-1-for-rhel-6-server-rpms
 - b. Red Hat Enterprise Linux 7 以降の場合:
 - jbcsc-jsvc-1-for-rhel-7-server-rpms
 4. root ユーザーで以下のコマンドを実行し、Jsvc をインストールします。

```
# yum groupinstall jboss-jsvc
```



注記

必ず **JAVA_HOME** システム環境変数を設定してください。

Jsvc を使用して JBoss EAP をスタンドアロンサーバーとして起動

以下のコマンドは、Jsvc を使用してスタンドアロンモードの JBoss EAP を起動および停止するために使用されます。以下の表には、ZIP/インストーラー JBoss EAP インストールまたは RPM インストールのコマンドに必要なパスが示されています。

表4.1 ZIP/Installer インストールの Jsvc ファイルの場所 - スタンドアロンサーバー

手順のファイル参照	ファイルの場所
JSVC_BIN	EAP_HOME/../../jboss-jsvc-<VERSION>/sbin/jsvc
JSVC_JAR	EAP_HOME/../../jboss-jsvc-<VERSION>/lib/commons-daemon.jar
CONF_DIR	EAP_HOME/standalone/configuration
LOG_DIR	EAP_HOME/standalone/log

表4.2 RPM インストールの Jsvc ファイルの場所 - スタンドアロンサーバー

手順のファイル参照	ファイルの場所
JSVC_BIN	/usr/bin/jboss-jsvc/jsvc
JSVC_JAR	/usr/bin/jboss-jsvc/commons-daemon.jar
CONF_DIR	/opt/rh/eap7/root/usr/share/wildfly/standalone/configuration
LOG_DIR	/opt/rh/eap7/root/usr/share/wildfly/standalone/log

Jsvc を使用してスタンドアロン JBoss EAP サーバーを起動します。

```
$ JSVC_BIN \
-outfile LOG_DIR/jsvc.out.log \
-errfile LOG_DIR/jsvc.err.log \
-pidfile LOG_DIR/jsvc.pid \
-user jboss \
-D[Standalone] -XX:+UseCompressedOops -Xms1303m \
-Xmx1303m -XX:MaxPermSize=256m \
-Djava.net.preferIPv4Stack=true \
-Djboss.modules.system.pkgs=org.jboss.byteman \
-Djava.awt.headless=true \
-Dorg.jboss.boot.log.file=LOG_DIR/server.log \
```

```
-Dlogging.configuration=file:CONF_DIR/logging.properties \
-Djboss.modules.policy-permissions \
-cp EAP_HOME/jboss-modules.jar:JSVC_JAR \
-Djboss.home.dir=EAP_HOME \
-Djboss.server.base.dir=EAP_HOME/standalone \
@org.jboss.modules.Main -start-method main \
-mp EAP_HOME/modules \
-jaxpmodule javax.xml.jaxp-provider \
org.jboss.as.standalone
```

Jsvc を使用してスタンドアロン JBoss EAP サーバーを停止します。

```
$ JSVC_BIN \
-stop \
-outfile LOG_DIR/jsvc.out.log \
-errfile LOG_DIR/jsvc.err.log \
-pidfile LOG_DIR/jsvc.pid \
-user jboss \
-D[Standalone] -XX:+UseCompressedOops -Xms1303m \
-Xmx1303m -XX:MaxPermSize=256m \
-Djava.net.preferIPv4Stack=true \
-Djboss.modules.system.pkgs=org.jboss.byteman \
-Djava.awt.headless=true \
-Dorg.jboss.boot.log.file=LOG_DIR/server.log \
-Dlogging.configuration=file:CONF_DIR/logging.properties \
-Djboss.modules.policy-permissions \
-cp EAP_HOME/jboss-modules.jar:JSVC_JAR \
-Djboss.home.dir=EAP_HOME \
-Djboss.server.base.dir=EAP_HOME/standalone \
@org.jboss.modules.Main -start-method main \
-mp EAP_HOME/modules \
-jaxpmodule javax.xml.jaxp-provider \
org.jboss.as.standalone
```

Jsvc を使用した JBoss EAP 管理対象ドメインの起動

以下のコマンドは、Jsvc を使用して JBoss EAP 管理対象ドメインを起動および停止するために使用されます。以下の表には、ZIP/インストーラー JBoss EAP インストールまたは RPM インストールのコマンドに必要なパスが示されています。

表4.3 ZIP/Installer インストールの Jsvc ファイルの場所 - 管理対象ドメイン

手順のファイル参照	ファイルの場所
JSVC_BIN	EAP_HOME /../jboss-jsvc- <VERSION> /sbin/jsvc
JSVC_JAR	EAP_HOME /../jboss-jsvc- <VERSION> /lib/commons-daemon.jar
CONF_DIR	EAP_HOME /domain/configuration
LOG_DIR	EAP_HOME /domain/log

表4.4 RPM インストールの Jsvc ファイルの場所 - 管理対象ドメイン

手順のファイル参照	ファイルの場所
JSVC_BIN	/usr/bin/jbcs-jsvc/jsvc
JSVC_JAR	/usr/bin/jbcs-jsvc/commons-daemon.jar
CONF_DIR	/opt/rh/eap7/root/usr/share/wildfly/domain/configuration
LOG_DIR	/opt/rh/eap7/root/usr/share/wildfly/domain/log

以下のコマンドを実行する前に、**JAVA_HOME** システム環境変数を設定してください。

Jsvc を使用して JBoss EAP 管理対象ドメインを起動します。

```
$ JSVC_BIN \
-outfile LOG_DIR/jsvc.out.log \
-errfile LOG_DIR/jsvc.err.log \
-pidfile LOG_DIR/jsvc.pid \
-user jboss \
-nodetach -D"[Process Controller]" -server -Xms64m \
-Xmx512m -XX:MaxPermSize=256m \
-Djava.net.preferIPv4Stack=true \
-Djboss.modules.system.pkgs=org.jboss.byteman \
-Djava.awt.headless=true \
-Dorg.jboss.boot.log.file=LOG_DIR/process-controller.log \
-Dlogging.configuration=file:CONF_DIR/logging.properties \
-Djboss.modules.policy-permissions \
-cp "EAP_HOME/jboss-modules.jar:JSVC_JAR" \
org.apache.commons.daemon.support.DaemonWrapper \
-start org.jboss.modules.Main -start-method main \
-mp EAP_HOME/modules org.jboss.as.process-controller \
-jboss-home EAP_HOME -jvm "${JAVA_HOME}/bin/java \
-mp EAP_HOME/modules -- \
-Dorg.jboss.boot.log.file=LOG_DIR/host-controller.log \
-Dlogging.configuration=file:CONF_DIR/logging.properties \
-Djboss.modules.policy-permissions \
-server -Xms64m -Xmx512m -XX:MaxPermSize=256m \
-Djava.net.preferIPv4Stack=true \
-Djboss.modules.system.pkgs=org.jboss.byteman \
-Djava.awt.headless=true -- -default-jvm "${JAVA_HOME}/bin/java \
&
```

Jsvc を使用して JBoss EAP 管理対象ドメインを停止します。

```
$ JSVC_BIN \
-stop \
-outfile LOG_DIR/jsvc.out.log \
-errfile LOG_DIR/jsvc.err.log \
-pidfile LOG_DIR/jsvc.pid \
-user jboss \
-nodetach -D"[Process Controller]" -server -Xms64m \
```

```
-Xmx512m -XX:MaxPermSize=256m \  
-Djava.net.preferIPv4Stack=true \  
-Djboss.modules.system.pkgs=org.jboss.byteman \  
-Djava.awt.headless=true \  
-Dorg.jboss.boot.log.file=LOG_DIR/process-controller.log \  
-Dlogging.configuration=file:CONF_DIR/logging.properties \  
-Djboss.modules.policy-permissions \  
-cp "EAP_HOME/jboss-modules.jar:JSVC_JAR" \  
org.apache.commons.daemon.support.DaemonWrapper \  
-start org.jboss.modules.Main -start-method main \  
-mp EAP_HOME/modules org.jboss.as.process-controller \  
-jboss-home EAP_HOME -jvm $JAVA_HOME/bin/java \  
-mp EAP_HOME/modules -- \  
-Dorg.jboss.boot.log.file=LOG_DIR/host-controller.log \  
-Dlogging.configuration=file:CONF_DIR/logging.properties \  
-Djboss.modules.policy-permissions \  
-server -Xms64m -Xmx512m -XX:MaxPermSize=256m \  
-Djava.net.preferIPv4Stack=true \  
-Djboss.modules.system.pkgs=org.jboss.byteman \  
-Djava.awt.headless=true -- -default-jvm $JAVA_HOME/bin/java
```

第5章 JBOSS EAP のアンインストール

5.1. JBOSS EAP のアンインストール (ZIP インストール)

1. 再使用される可能性がある変更された設定ファイルとデプロイメントを必ずバックアップするようにしてください。
2. ZIP によるインストールでは、JBoss EAP が単一のディレクトリーにインストールされます。インストールディレクトリーを削除して JBoss EAP をアンインストールします。
3. また、マシンにインストールされた JBoss EAP に依存するその他のスクリプトをすべて削除します。

5.2. JBOSS EAP のアンインストール (インストーラーによるインストール)

インストーラーを使用して JBoss EAP をインストールした場合、[グラフィカル](#)または[テキスト](#)モードのアンインストーラーを使用して JBoss EAP をアンインストールできます。

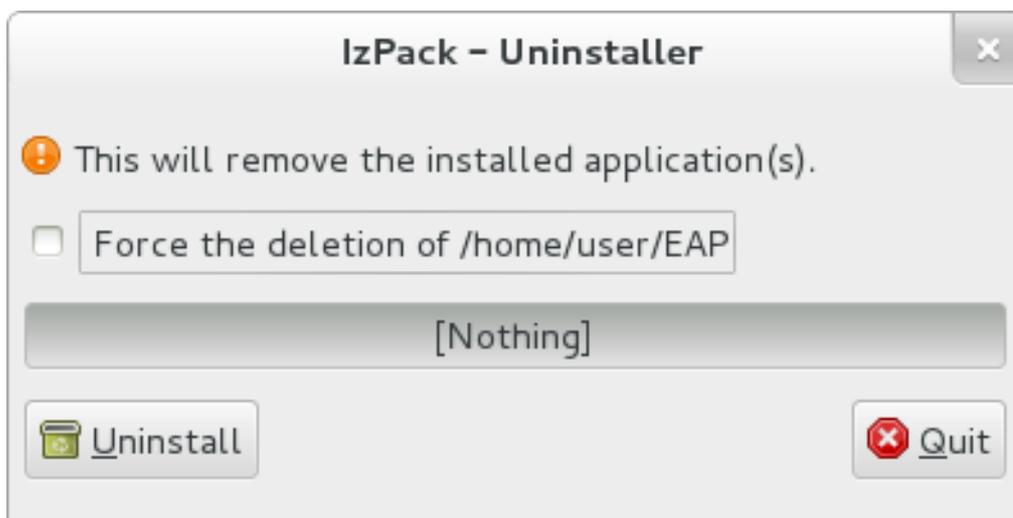
JBoss EAP グラフィカルアンインストーラーの実行

1. ターミナルを開き、**EAP_HOME/uninstaller** に移動します。
2. 以下のコマンドを実行して、グラフィカルアンインストーラーを起動します。

```
$ java -jar uninstaller.jar
```

グラフィカルアンインストーラーは以下の図と似ています。JBoss EAP インストールディレクトリーを削除したい場合はチェックボックスを選択します。

図5.1 JBoss EAP グラフィカルアンインストーラー



3. **アンインストール** をクリックし、アンインストールプロセスを開始します。
4. アンインストールプロセスが終了したら、**終了** をクリックしてアンインストーラーを終了します。

JBoss EAP のテキストベースアンインストーラーの実行

1. ターミナルを開き、**EAP_HOME/uninstaller** に移動します。

2. 以下のコマンドを実行して、テキストベースのアンインストーラーを起動します。

```
$ java -jar uninstaller.jar -console
```

3. 指示に従って JBoss EAP をアンインストールします。

5.3. JBOSS EAP のアンインストール (RPM インストール)



警告

RPM を使用してインストールされた JBoss EAP インストールをアンインストールすることは推奨されません。

RPM パッケージ管理の性質上、インストールされたパッケージおよび依存関係がすべて完全に削除されることは保証されず、パッケージ依存関係の不足によりシステムが不整合な状態になります。

Revised on 2019-11-27 13:00:09 CET